

かたなみがわけんりゅういき だいすぎ
c-2 片波川源流域の台杉

写真 D-007

たにもりすぎ
谷守杉

最初は伏条となって根元で3分岐していたものと思われるが、巨大化するに従ってお互いの幹が癒着し、一本の幹となったものであろう。源流域の天然杉群生地で最大の大杉だ。

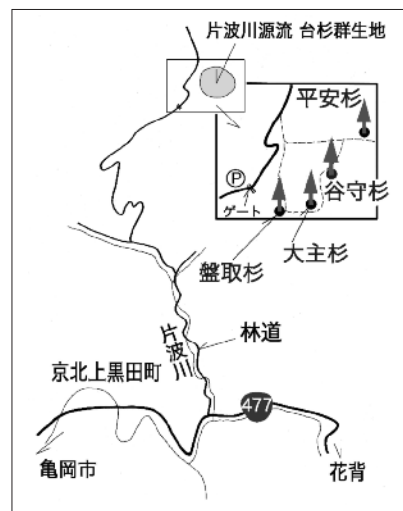




写真 D-008

へいあんすぎ
平安杉

2008年取材時の平安杉は(下)、根元で三分岐するものの、巨大な幹を斜上する見事な樹形であった。2013年の取材時には(左上)、中心幹が折れ、見る影もなくなっていた。実生伏条幹が巨大化したもので(井の口山の伏条台杉と成立は同じと考えられる)、先端に伐採跡が見られる。折れた幹の年輪調査から、推定樹齢は350年と考えられ、比較的若い事が判明した。



平安杉の中心部

古株が見られず、実生伏条の分岐幹がそのまま成長していった様子が観察できる。

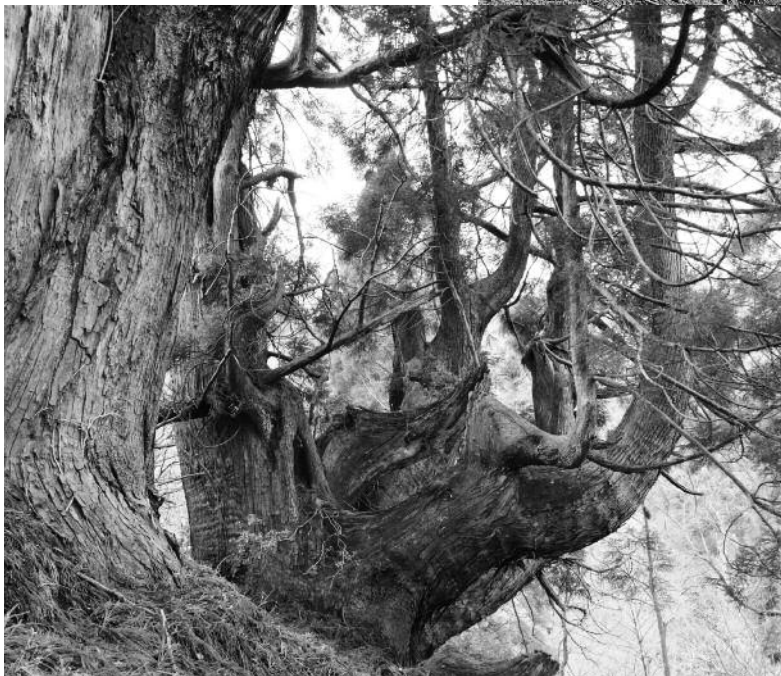
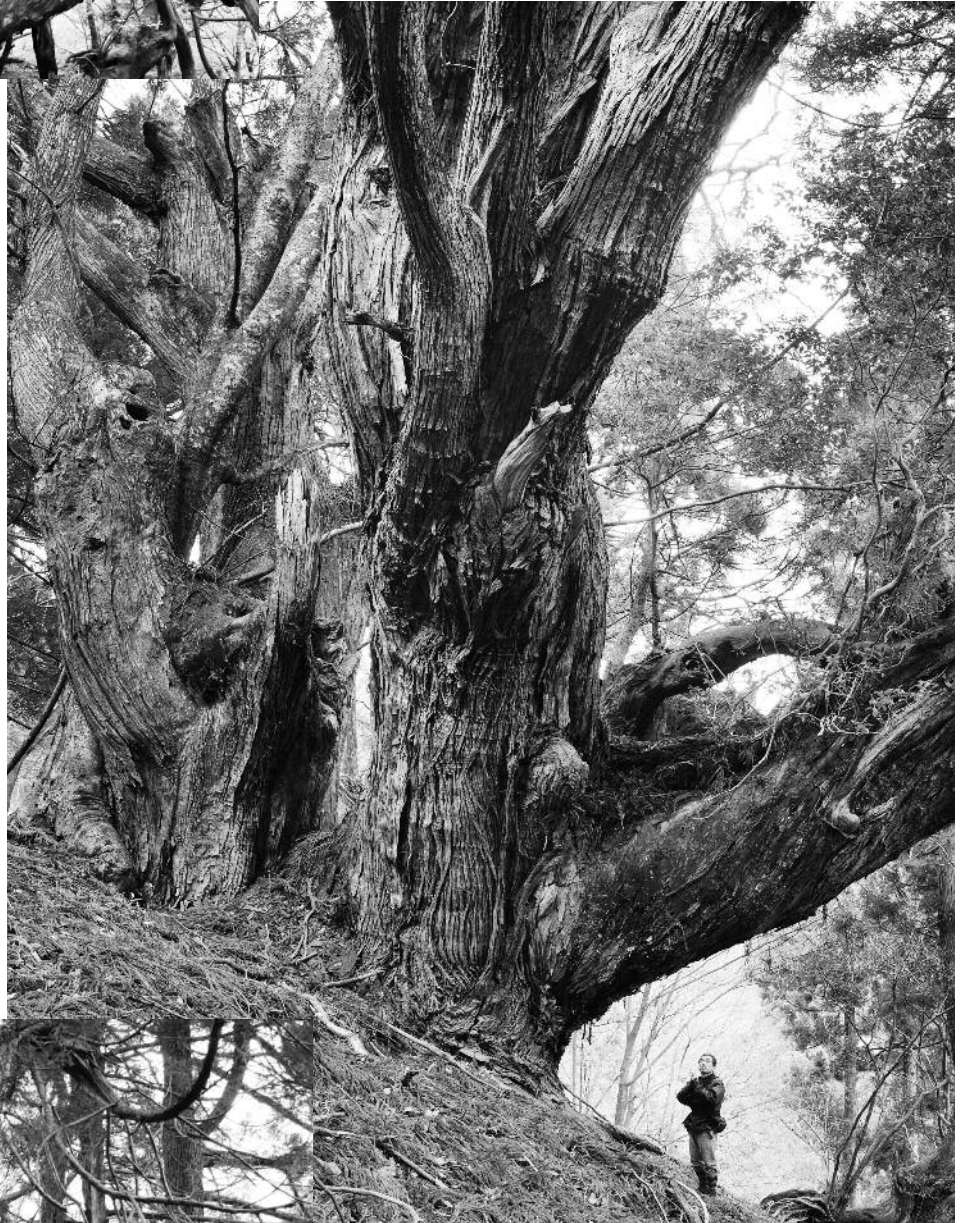


写真 D-009

ぼんどりすぎ
盤取杉

古株更新の痕跡が見られる天然杉で、根元で分岐している。主幹に古株が顔を出し、新しいスギが古株を覆っている。



写真 D-011
大やぐら杉

古株更新の樹形。ヒノキや広葉樹も着生して巨大化している。

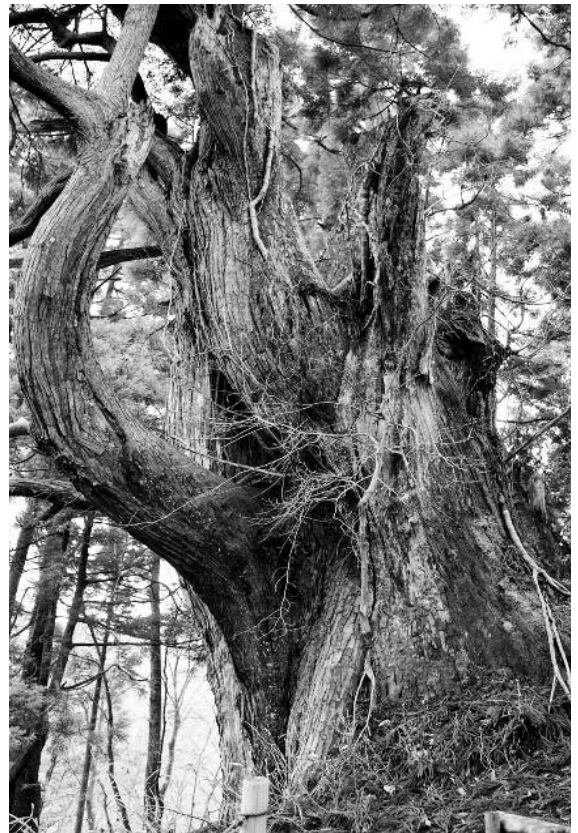


写真 D-010
おおぬしすぎ
大主杉

近くに盤取杉等の巨大な台杉が林立し、太古の世界に迷い込んだかのような錯覚を覚える。



写真 D-012 かぶとすぎ
兜杉

古株更新の樹形だが、低い位置で発芽した伏条幹が、お互いに癒着して巨大化した台杉。



写真 D-013
さんぞんすぎ
三尊杉

根元で3分岐する伏条樹形。幹が離れているようだが、中心部に古株があったのかも知れない。